

ふれあい活カゆとり

すみだ

We!



去年は東京スカイツリー®の開業年ということで、墨田区にとって記念の年になりましたが、今年も東京スカイツリーを迎えるの最初のお正月です。江戸以来の風習と伝わる隅田川七福神めぐりをする人々に加えて、東京スカイツリーの見学に訪れる人も押し寄せ、お正月の墨田区は去年にも増して賑わいました。この連載も最終回となりました。最後は区北端の鐘ヶ淵駅界隈を訪ねることにします。

向島を歩く —その2—

鐘ヶ淵駅を降りて、墨堤通りに向かって歩きます。そして、墨堤通りを少し南に歩くと、都営白鬚東アパートと墨堤通りの間に造られた格好の梅若公園（堤通二丁目10）が右手に見えてきます。その公園内に銅像が立っています。この人物こそ函館五稜郭まで逃れ、明治政府に最後まで抵抗したことで知られる榎本武揚です。大正2年（1913）になって建てられた銅像です。

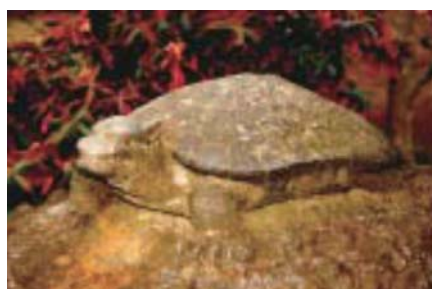


榎本武揚銅像（梅若公園内）

榎本は政府に降伏した後、東京に護送され、長い間牢獄に繋がれます。しかし、罪を許されて釈放されると、外交官として政府に登用されます。外務大臣まで勤めましたが、墨田区とも縁のある人物であることはあまり知られていないでしょう。榎本は明治38年（1905）から死去する41年（1908）まで、墨堤通り沿いに造られた屋敷に住んでいました。墨堤つ

まり隅田川の堤を毎日馬で散歩していたと伝えられます。白鬚東アパートを抜け、東白鬚公園に入っていきます。そのまま、隅田川縁を走る首都高速道路に向って歩くと隅田川神社（堤通二丁目1）が現れます。水神社とも呼ばれた社です。隅田川神社には、鎌倉幕府の創立者である源頼朝にまつわる次のような伝説が残されています。

治承4年（1180）、頼朝が隅田川を渡って鎌倉に向おうとした際、川幅が広がったため渡ることができず難渋しました。そのため、隅田川神社で祈願をおこないました。そうしたところ、隅田川から大きな亀が現れて対岸に渡ることができたそうです。頼朝は亀を水神の化身と信じたそうです。



隅田川神社の狛亀

社殿の前に行くと、今でも狛犬ならぬ狛亀が祀られています。鐘ヶ淵駅界隈を歩くと、鎌倉時代の伝説として明治の歴史にも出会うことができるのです。以上4回にわたって、墨田区を歩いてきました。東京スカイツリーという世界に誇れる観光名所が誕生して1年が経過しようとしています。墨田区域は既に江戸時代から観光名所として賑わう街でした。そんな江戸時代からの歴史を頭に思い浮かべながら、東京スカイツリーで注目される墨田区の移り変わりを、区民の方々は実際に歩きながら五感で感じ取っていただけだと思います。（歴史家 安藤 優一郎）

庚申塔さまざま

庚申塔は、庚申信仰から生まれたものです。中国の道教の三尸説に「人の身中には三尸という虫がいて、庚申の日に眠ると抜けだし、昇天して人の罪過を天帝に告げ、それによってその人の寿命が削られる」とされています。しかし、庚申の夜に眠らずにいれば、三尸は昇天できず、三度庚申を守れば振状し、七度守れば長く絶えてしまうといわれたので、庚申信仰が始まったということです。

古くは貴族の間の信仰であったものが、いつか民衆の間に広まり、講中等もでき、講中や個人が来世供養のため、庚申塔を建てたといえます。左上の写真の庚申塔は、長命寺にある万治2年（1659）銘の庚申塔です。万治といえは隅田川に初めて両国橋が架けられた年で、庚申塔としては区内最古のもので

す。地藏菩薩が舟型光背に見事に刻まれています。光背の右側に



「奉供養庚申地藏大菩薩二世安楽所」と刻まれているので、庚申塔であることがわかります。

こうした型式の庚申塔は、区内では比較的古いものに多く、多聞寺にある同型の庚申塔（右写真）は延宝8年（1680）建立です。

左写真（上から2番目）の庚申塔は、円徳寺（墨田5142）の境内にあるものです。高さ161センチメートル、幅68センチメートルという、庚申塔としてはかなり大きなものです。

將軍家綱の時代にあたる、寛文12年（1672）建立です。この時代は、墨田区内で他に7つの庚申塔が建立されています。



この庚申塔は、舟型光背を背にして、蓮華座の上に阿弥陀立像が刻まれ、さらに台座には、しつかりと三猿が彫られています。石碑に彫られた碑文からも庚申塔であることは明白です。主尊の両側に隅田村の人達27名の姓名が見えますが、この人々と郷土のかかわりを調べるうえでも、大変資料価値が高いと考えられます。

ところで、庚申塔になぜ三猿が彫られるのでしょうか。庚申は、「かのえさる」とも読みますから、申が猿となったと考えられます。古い教えに、悪いことは見ざる、聞かざる、言わざるといふことばがあります。これが三猿の起こりではないかと考えられます。

この三猿は庚申塔の本尊として作られることもあったようで、左写真（下から2番目）の庚申塔がそれです。

多聞寺の墓域入口に4基並ぶ庚申塔のうちの右から2番目の



ものです。三猿が板碑型のほぼ中央に立体的に彫られています。区内にはこういった形式の庚申塔は他になく、珍しいものといえましょう。それに建立者が下谷御植木町の人々であることも目を惹きます。この人々は隅田村ゆかりの人々なのでしょう。この塔は延宝8年（1680）の建立です。

写真左下の庚申塔は、法泉寺（東向島318）にある笠石塔婆型の庚申塔で、これも延宝8年建立です。阿弥陀坐像が塔の上部に浮彫りになっており、両側面には蓮華座が浮彫りになり、台座には三猿も刻まれています。高さは73センチメートル、幅31センチメートルと大きくはありませんが、なかなか手のこんだ庚申塔です。なお、残念ながら笠石が紛失し、石塔自体がやや傾いています。

参考 「社会教育だより」
（墨田区教育委員会発行）

